令和７年度第２回名寄市総合教育会議議事録

（要　旨）

開 催 日　　令和７年10月29日（水）15：30～17：06

開催場所　　名寄市役所名寄庁舎　４階大会議室

出席者

市　　長	加　藤　剛　士
教 育 長	岸　　小夜子
教育長職務代理者	髙　橋　雅　樹
教育委員	松　田　潤　子
教育委員	中　枝　範　子
教育委員	北　野　裕　介

事務局職員

総合政策部長	石　橋　　毅
総合政策室長	櫻　田　孝　臣
教育部長	伊　藤　慈　生
学校教育課長	土　井　　渉
主幹（指導主事）	久保田　竜　平
主幹付主査（指導主事）	大　沼　房　子
社会教育課長	堺　　卓　也
智恵文公民館長	吉　田　清　人
児童センター館長	小笠原　　弘
教育相談センター所長	柴　野　武　志
図書館長	安　田　　穣
北国博物館長	金　田　卓　浩
天文台長	村　上　恭　彦

傍 聴 者　　０名

議　　事　　今後の子どもたちの居場所について

会議録（要旨）

１　開　　会　　午後３時３０分

２　市長挨拶

３　議　　事
※設置要綱第４条の規定により市長が議長を務める。

（１）今後の子どもたちの居場所について
〔議　長〕
名寄市の子どもたちの居場所について意見交換を行う。

（教育委員）
共働き家庭の増加により、放課後の子どもの居場所の必要性は理解できる。一方で、デジタルを通じたつながりは既にあり、リアルな友人関係がなくてもやり取りが可能な現実もある。放課後、保護者が帰宅するまでの時間を自治体としてどう支えるかは重要だが、そもそもどのような子どもが、どのような居場所を求めているのかが見えていないため、まずは現状把握と見える化が必要である。

〔議　長〕
児童館や学童など、小学校低学年向けの放課後の居場所は一定程度整備されているが、小学校中学年以上の子どものうち、部活動やスポーツクラブ等に参加していない子どもの居場所が不足していると感じている。多様な居場所があることが理想だが、新たな施設整備には費用面の課題もあり、その点も含め意見を伺いたい。

（教育委員）
新たな施設整備ではなく、民間の空きスペースや既存施設を活用する方法も考えられる。商業施設の空き店舗などを活用し、子どもが会話しながら過ごせる場をつくるなど、既にあるものを生かす視点が必要だと感じている。

〔議　長〕
ソフト面についてはどうか。

（教育委員）
放課後子ども教室についても、時代に合わせた見直しが必要であり、コミュニティスクールの中で、学校を拠点とした放課後の学習の場を検討してはどうか。

〔議　長〕
コミュニティスクールが運営を担うことで、学校の延長としての居場所にもなる。

（教育委員）
駄菓子をきっかけに居場所をつくる事例もあり、出向く支援としてキッチンカー等を

活用し、公民館などに一時的な居場所を設けることも可能ではないか。民間企業との連携や大学生、高校生が協力して企画や運営を担ってもらうことも考えられる。

（教育委員）
　来ることができる子だけでなく、来ることができない子の近くまで行くという視点も大切である。
　また、お寺など十分に活用されていない既存施設もあり、新設ではなく、人の関わり方を工夫する方がよいのではないか。

（教育委員）
　京都では、お寺で子どもに勉強を教える現代版の寺子屋のような取組があり、地域全体で連携する一つの可能性だと感じた。

（教育委員）
　お寺に限らず、教会など人の利用が減っている場所の活用は選択肢になり得る。

（教育委員）
　議論が抽象的で、対象となる子ども像が整理されていない。児童クラブを利用しない子、不登校や困り感を抱える子など、ニーズは多様である。市として大枠の方針を示しつつ、学校運営協議会などを通じて実態を把握し、誰に何が不足しているのか整理した上で、居場所を検討すべきである。

（教育長）
　名寄市総合計画の策定にあたり実施したアンケート結果では、中学生から大学生にかけて「居場所がない」という声が多く、人と直接会いたいというニーズも見られる。大学生を核に、子どもたちが意見を出し、その発想を生かした居場所づくりを行政が支援することは有効であり、そのためには、教育と福祉の連携も不可欠である。

〔議　長〕
　幼児期から小学校低学年までの居場所は一定程度あるが、見せ方や発信に工夫が必要である。放課後子ども教室についても、コミュニティスクールが担い手となるのであれば、より実効性のある取組になる可能性があり、その点は検討していきたい。今後、特に重要なのは中学生・高校生・大学生世代であり、名寄に愛着を持ち主体的に関わる意識を育てるためにも、この世代の居場所不足は大きな課題である。

（教育委員）
　塾に通えず、学習面で困っている子どもは一定数いるはずであり、大学生が関わる学習支援は有効だと思われる。現状の名寄市はこの分野がやや手薄であるため、優先的に取り組むべきだと感じる。

（教育委員）
　中学生は部活動の時間と重なり、放課後子ども教室に参加できない実態があった。学習支援を行うなら土日開催が現実的であり、大学生など支援する側の人材確保が課題となるが、中学生の学習支援は重点的に検討すべきと考える。

〔議　長〕

「居場所＋学習支援」を目的としたソフトの展開という整理でよいか。放課後子ども教室については学校を拠点とし、時間帯など検証しながら、まずはモデル的に一校で試行する方法もある。

（教育委員）
空間づくりは重要であり、家具や照明、配置を工夫することで既存施設でも雰囲気は大きく変わる。中高生や大学生が集まりたくなる空間にする視点も必要である。
また、調理室を使ったお菓子作りや、ワークショップができる場所などもあると望ましい。

（教育長）
固定的ではなく、子どもが自由に使い方を選べる空間が望ましい。来ることができない子へのアウトリーチも含め、多様な居場所が求められている。

（教育委員）
まずは「集まりたい」と声を上げている多数の子どもたちのニーズに応える空間を用意することが重要である。その雰囲気が広がることで、引きこもりがちな子どもにも波及する可能性がある。

（教育委員）
資金面では、ふるさと納税型クラウドファンディングが活用できればよいと思う。

（教育長）
大学が名寄にあることは大きな強みである。大学との連携は極めて重要であり、若い世代に発想を委ねることも必要である。

（教育委員）
子ども自身に「本当に欲しいもの」を考えさせる方が、実際のニーズにより合致したものになると思う。

（教育委員）
町内会館など既存施設を活用し、地域の大人が関わって、大学生から中学生、小学生と関係性をつくることができるような、交流・学び・世代間交流が同時に生まれる「居場所」を、まずはモデル的につくることが有効ではないか。

（教育長）
コミュニティケアの研究課題として、大学生に名寄の中高生や若者が集まれる場を考えてもらうことは有効だと考える。場所や予算など限られた条件の中で工夫し、今の子どもたちの価値観を反映させた空間の雰囲気や使い方を自由な発想でアイデアを出してもらえるのではないか。

（教育委員）
モデルケースとして対応可能な公共施設はあるのか。

〔議　長〕
中高生が気兼ねなく過ごす場としては、市内の空き店舗の活用が現実的である。

（図書館長）
　民間による居場所づくりの動きもあり、図書館としても連携することで、まち全体の取組に繋いでいくことができる。

（北国博物館長）
　イオンはバスもあり、空き店舗などのスペースもあるため、利用しやすいと考えられる。

（教育委員）
　学校は社会性を学ぶ場でもあることから、学校に行くことができない子どもたちは、この居場所を通じて社会性が養われるという視点を、行政は常に持ちながら居場所の在り方を考える必要があると考える。

〔議　長〕
　子ども自身が社会性を持とうと思える状態まで、気持ちを引き上げることが大切である。

（教育長）
　中学卒業後にまちを離れる子が多く、中高生へ名寄の魅力をどう伝えるかが課題である。

〔議　長〕
　子どもの居場所づくりの方向性として、気軽に立ち寄れ、多世代と関われる居心地のよい空間を、費用を抑えながら複数用意できないか検討していく。放課後子ども教室についても、見直しにより新たな可能性を探りたい。

（教育部長）
　部活動の地域展開も一つの居場所づくりと捉えることができる。そうした取組も含め、市全体の子どもの居場所について、整理し、検討していく必要性を感じている。

〔議　長〕
　高校生向けの下宿の必要性など、高校生世代の支援も今後の重要な課題である。名寄高校の定員確保は、持続可能なまちづくりに直結する。
　そのほか意見はあるか。

（教育委員）
　子ども会の活動が成り立たない町内会が増えており、育成連合会や学校運営協議会の今後の役割整理が必要である。

（社会教育課長）
　子ども会は組織率が低下し、担い手不足が深刻である。在り方を整理する段階にあるが、明確な将来像は示せていない。

〔議　長〕
　安心安全会議が学校運営協議会と一体となり、地域学校協働活動として、町内会や学

校区単位で子どもを守り、育て、関わっていく形は理想的である。子ども会の役割も慎重に検討していく必要がある。

（教育委員）
　町内会は今後、どのようにして学校と繋がっていくのか。

（教育長）
　その点も含め、地域学校協働本部の位置づけについて検討しているところである。

（社会教育課長）
　学校運営協議会は学校の課題や相談をする場でもあるので、各校共通テーマとして「子どもの居場所」を示し、学校運営協議会で考えてもらうことも一案である。

（教育委員）
　今後の居場所づくりや部活動の地域展開のことを考えると、「のるーと」の活用範囲を広げていくことも検討してよいのではないかと考えている。

〔議　長〕
　それでは、限られた時間の中、多くの貴重な提案をいただき、感謝申し上げる。
　以上をもって、本日の会議を閉会とする。

４　閉　　会　　午後５時０６分